

開かれた至聖所への道

へブライ人への手紙一〇章19〜39節

私たちは、イエスの血によって聖所に入れると確信しています。イエスは、垂れ幕、つまり、ご自分の肉を通して、新しい生ける道を私たちのために開いてくださったのです。(19、20)

旧約時代、神を礼拝する場所である幕屋の最も奥にある至聖所には、大祭司が年に一度だけ入ることができました。至聖所の前にある垂れ幕が聖所と至聖所を隔てており、罪をもった人間が神に近づく道が開かれていないことを告げていました。しかし、永遠の大祭司イエス・キリストが十字架でご自身を献げられたことにより、その隔ての幕は取り除かれ、罪人が神に近づく道が開かれました。それゆえ、この手紙の著者は、「信頼しきって、真心から神に近づこうではありませんか(22)と私たちに勧めています。口語訳では「はばかりことなく」(19)と訳されていますが、確信を失い、神の御前に近づくことをはばかり人がいたからです。私たちは自分の正しさや聖さを頼みとするのではなく、ただ十字架のキリストだけを頼りにして、はばかりことなく神に近づこうではありませんか。